



潮流

「人生を無視された
棄民状態です。国は
基本的人権をどう考
えているのか」。マ

グロ漁船・ひめ丸の乗組員だ
った増本和馬さんの訴えが法
廷に響きました▼米国が19
54年にビキニ環礁などで強
行した核実験で、多くのマグ
ロ船員が被ばくした「ビキニ
核被災事件」。今日まで真相
を隠し、被害者救済を怠った
日本政府の「国家的犯罪」を
問うビキニ国賠訴訟の控訴審
です▼事件は、米国が見舞金
200万ドルを日本に支払うこ
とで翌年1月「政治決着」。

当時の日本政府が「大規模な
戦犯の解放と仮釈放」を取引
材料に、廃棄した汚染マグロ
の値などに限定して早期決着
させた。こんな裏取引を示
す日本側公文書が研究者の手
で明らかに▼「国は初めから
第五福竜丸以外の漁船乗組員
のことは切り捨てていたと思
うと、腹立たしい限りです。
私らを、戦犯の釈放の取引材
料にするという事実も知ると
ますます、怒りが増します」
▼事件の実相を今も隠し続け
る安倍政権・自民党政治の根
深い隠ぺい体質に嫌気がさす
と増本さん。「親の代からコ
チコチの自民党でしたが、見
切りをつけました」。親の墓
に報告すると「よくやった」
と墓石をゆらし、言うはずだ
と笑います。「本腰を入れて
国の不正をただすという点で
は共産党だと思いました」と
も▼ビキニ水爆被災は、計り
知れない人たちの命に関わる
人道上の問題。加害の米国と
一緒に核実験の人体への影響
を矮小化する日本政府の責
任は、今も重大です。人間のた
めの司法の判断が必要です。